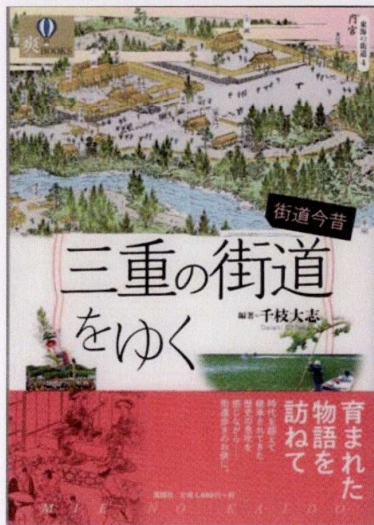


## 本の紹介

### 『街道今昔 三重の街道をゆく』

#### 執筆顛末記

飯 田 良 樹 (久居一志地区)



依頼原稿が載っている『街道今昔 三重の街道をゆく』が届いた。8月10日出版であるので『三重医報』9月号に掲載していただき、『三重医報』を読まれた諸先生方に前回に報告した『これであなとも歴史探偵！歴史資料調査入門』（『三重医報』令和4年10月号）の時のように読んで頂きたいと思い投稿した。

この本の依頼は前回の『これであなとも歴史探偵！』同様にプラタモリ案内人であった千枝大志先生（『三重医報』平成28年8月号参照）からであった。

「飯田先生、歴史探偵の時はお世話になりました。今回は三重の街道を今までとは違う観点で諸先生方々に書いて貰おうと思い立ちました。そこで先生は道中記などを元に初瀬街道を書いておられるので、初瀬街道を書いてください。」との事であった。

これは、また大変な話である。『これであなとも歴史探偵！』を書くにあたって、かなりの資料集めに時間を要した。コロナ蔓延中どの様に資料を探すのか、また街道写真撮影はどうでしょうか？などである。

以前、員弁の医師 松宮周節が書いた『紅梅軒国遊記』の初瀬街道の部分、吉村利男さんが『津市白山町石造物調査書 第三編』を作製するときに翻刻をお願いして掲載していただいた事を思い出した。これで決まりであるが、風媒社からは8ページでお願いしますと言ってきた。三重県であれば六軒から名張までである。地図を作製し『国遊記』の写真や風景写真などを入れると10ページでも足りない。林さんと交渉したが一度書いてみてくださいとの事で書き出した。

一番困ったのは、地図作製である。初瀬街道は近鉄大阪線に沿って東から西に細長く2ページにわたってしまう。これに3ヶ月要して作り終え、林さんに連絡すると、地図は三重県教育委員会が発行した地図を各街道に使用出来るように三重県教育委員会の許可をいただいたとの返事であった。ああ～あである。でも、友人の箕さんから「岐阜の産廃業者が初瀬街道近くに産業廃棄物投棄場を作ろうとしている。水源地でもあるので反対している。そのために昔の地図が必要で貸して欲しい」と申し入れがあり、青山高原の初瀬街道作製に明治25年の地図を使用していたので、無駄にならずに済んだのである。



青山高原には街道筋に石仏や道標がかなり残されている。雑草に埋もれたり、街道が不明になっている所も多いので、吉村利男さんに案内を依頼したら快く返事をいただいた。青山の初瀬街道は垣内より歩いてみるとかなりきつい。なんとか写真撮影が終わった2～3日後に吉村さんより電話があり、次の日に胸が痛くなり病院を受診したら

狭心症と診断された、明日精密検査を受けるとのことであった。本当に悪いことをしたと平謝りであった。後日手術をしなくて良かったと連絡があり、ほっとした。



阿保からの初瀬街道は以前調査したことがあるが、自宅から距離もあり、写真撮影や資料調査がたくさん必要である。車で行き来も大変であった。ゴルフ仲間の長谷川正明さんが名張なので、近鉄で来たら車で案内してあげるとのありがたい申し出があり時間的に助かった。

文章を作成していたときに、妻から「京大の金坂清則さんから電話」とあった。京大・金坂は私の知っている限りでは、イザベラ・バード著『日本奥地紀行』の翻訳者だと電話に出ると『『これであなたも歴史探偵!』を読んだら伊勢の鳥瞰図を集められておられるのを知り、鳥瞰図は伊勢の建物が網羅されているか?』との質問で、やはり京大の金坂清則先生であった。質問にいろいろとお答えしたが、『これであなたも歴史探偵!』が沢山の方々に読まれていると知り、今回の文章作りの励みとなった。



また、今回の『三重の街道をゆく』で「イギリス人が伊勢路をゆく!」を書かれた国際日本文化研究センター名誉教授ジョン・グリーン先生よりアーネスト・サトウやイザベラ・バードが宿泊した松島屋の資料がないかとお尋ねがあり、松島屋の旅籠絵をお送りしたが、ページ数の関係で削除されていた。残念。

私に与えられた8ページに「初瀬街道『紅梅軒国遊記』で辿ってみる」をまとめて林桂吾さんに提出した。ところが著者が思いのほか多くなり

6ページに縮小して欲しいと依頼があった。8ページでも少なかったので、それから文章の削除や写真の枚数調整に手間取ってしまった。

これでは発行日に間に合わないと覚悟したら、前出のグリーン先生から「今ドイツに留学中で、飯田先生はもう提出されましたか?私はまだまだです。」と言われたのでほっとして作業をすすめた。

結論からいえば、街道執筆者のあるお方の提出原稿が遅れて1年近く発売が延びてしまったが遅れたかいもあり(?)読んでみると面白く、他にない街道解説書になっている。

また、共著者が多く32名を数え、編集者の千枝大志先生や風媒社編集部の方の林桂吾さんのご苦労、そして作業は大変なことであっただろう。

では、ここに目次(サブタイトルは省略した)を挙げると、

#### I 三重の主な街道

東海道・伊勢街道・大和街道・伊賀街道・伊勢別街道・初瀬街道・伊勢本街道・和歌山街道/和歌山別街道・二見道・朝熊山の岳道・磯部道/鳥羽道/青峰道・美濃街道/濃州道・巡見道・八風道・菰野道・熊野街道

コラム <街道文化遺産>としての山田羽書

#### II 近世三重の城郭図・城下図を読み解く

長島城・桑名城・神戸城・亀山城・津城・田丸城・松坂城・鳥羽城・上野城

コラム『伊勢参宮名所図会』の挿絵を読み解く

#### III お伊勢参り小咄

齋宮につづく道・室町殿の伊勢参宮をひもとく・人びとの接点となる一身田の専修寺・舟を使った東からの伊勢参宮の道・イギリス人が伊勢路をゆく!・鉄道からみた伊勢参宮

#### IV 伊勢をめぐる<参詣>をデジタル化する

仏像データの有効性と利活用のために・お伊勢参りの現風景をデジタルアーカイブ・『伊勢新四国八十八ヶ所道しるべ』を自由にする

目次をみただけでも、盛りだくさんの内容を想像いただけよう。

ご興味をお持ちの先生がおられましたら、近くの書店またはネット販売などでお申し込みください。

『街道今昔 三重の街道をゆく』

千枝大志 編著 風媒社 発行

定価1800円+税